

2024 年 7 月 7 日

学校法人三幸学園
札幌ビューティーアート専門学校
校長 後藤 寿樹 殿

学校関係者評価委員会
委員長 小林 真子

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 小林 真子 (株式会社大丸松坂屋百貨店 大丸札幌店人事開発部人事担当)
- ② 白鳥 二志 (株式会社 SWAN 代表取締役 第 5 期卒業生)
- ③ 木下 梨歌 (1st NAIL&eyelash 代表取締役)
- ④ 大滝 ゆかり (学校法人ミスパリ学園 ビューティー&ウェルネス専門職大学)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024 年 6 月 27 日 (会場 札幌ビューティーアート専門学校 602 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 札幌ビューティーアート専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 野村 智子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 小林 真子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【2023年度目標】

- 1) 退学率低減
- 2) 国家試験合格率向上
- 3) 就職率向上

・**退学率**: 8.4%→9.9%(1.5%増)

2022年度より1.5%増えてしまった主な理由は、目標喪失と休学した学生がそのまま退学に繋がってしまった事が影響していると考えられる。学校としても、生徒状況を見た上で、時代に合った教育を検討していかなければならない。

・**美容師免許取得率**: 91.7%→91.2%(0.5%減)

実技試験では衛生で不合格者が多く出たことが課題。筆記試験も座学内容の理解習得に苦戦した。国家試験直前対策の期間でも十分に補う事が出来ず、対策の実施方法に課題があったと考えられる。

・**就職率**: 98.9%→100%(1.1%増)

2022年度はコロナ禍の影響もまだあり、美容部員の求人が少し厳しい状況でしたが、コロナ前の状況に戻ってきている為、内定100%の結果を出すことができた。

② 学校関係者評価委員会コメント

【就職について】

小林委員(ヘアメイク科)

・欠員が出るときに求人を出している現状。

白鳥委員(美容科)

・各年代が揃っている人員体制を組めるように求人を出している。

木下委員(トータルビューティー科)

・各店舗、各職種1人にしないようにしている(離職率が下がるため)。

大滝委員(エステティック科)

・学校現場で退学という課題同様に、職場においては離職率が気なる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱えているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

社会のニーズをつかめる体制を整え学校の育成人材像および将来構造を更に検討していく必要がある。

② 今後の改善方策

産学連携をより増やし、業界ニーズに合わせた教育内容を盛り込み進めていく。

教職員が業界のニーズを知る機会の場を設ける。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【今時代について、感じていることや対応など】

白鳥委員(美容科)

・自主退職はなくて、離職は少ない。実際の現場では、男性には時間を使い、女性には気を遣うことを心掛けていることで、離職率低減に繋がっている。

・働き方改革によって、会社に対してクリーンやホワイトというイメージが強いと感じる。ネット情報が多く、言葉だけを知らずしており現実との乖離が大きい。

・「楽しく働ける」「上の人が格好いい」って思ってもらえるように心掛けている。

木下委員(トータルビューティー科)

- ・SNSをよく見ていて情報共有を生徒が互いにしている。
- ・ネイル、アイリストの業務委託が増えている。短期間で業務委託に移行(育ったらいなくなる)、業務委託の方が給与もよいので簡単に考えている人が増えているのが課題である。質より量をこなして、手元にお金があることが最優先になっている若い世代が多くなっている。

大滝委員(エステティック科)

- ・SNSでも見たいものしか見ない(ブラックやホワイトという情報)。
- ・学校で教えることと現場で教えることのギャップがあり、業界直結の学びをしているはずなのにすぐに辞めてしまう現状。業界に対する想像力が不足しているのではないかと感じる。
- ・気軽に辞めてしまうことも多く、今のこの技術を身に付けたら、将来何に繋がるのかを見せてあげることが必要。

(2)学校運営

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

情報システムは、取り入れているが全教員に浸透していない。

システム内容に課題を感じている

② 今後の改善方策

学校現場の声を学園システム室に情報として伝え、アップデートしていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

特に、インターンシップに関して十分な受け入れ先の確保ができておらず生徒へ積極的に薦められていない。

② 今後の改善方策

企業開拓や生徒への動機付けが必要。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

白鳥委員（美容科）

・SNS 投稿の仕方を授業で取り入れる、web・SNS に関しては専門分野の方に講習してもらえると良い。Z 世代は SNS 投稿に関して、自分達の感覚で良く仕上げられた時のみ投稿している。フォロワー数は、2000～3000 人ほどが業界として武器になるため、投稿頻度や内容も学び取り入れて欲しい。自分で考え何かを行動していく力が、社会では必要。

・感謝の気持ちを早くから体感させることも大切で、例えば1番大切にしている人に、感謝してもらう経験を大事にする。自分達が関わっている身近な人に感謝出来なければならない。学校での参観日はとても良い経験。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

退学率について2022年度より1.5%増えてしまった主な理由は、目標喪失と休学した学生がそのまま退学に繋がってしまった事が影響していると考えられる。

② 今後の改善方策

生徒状況を見た上で、時代に合った教育を検討していかなければならない。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

あらゆる理由で学習をしたい希望はあるものの、教室に入れない生徒が増加してきている。
不登校にならないための施策を開拓しているが、急な対応に困惑する時がある。

② 今後の改善方策

人数増加時の環境整備や人員確保。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

インターンシップ先の確保。

② 今後の改善方策

企業開拓を積極的にすすめる。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

物価高騰により教材費などのやむをえない値上げ等があること。

② 今後の改善方策

お取引先様との連携をしっかりと行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

特になし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

コロナ過で一度減ってしまった地域イベントやボランティアの増加。

② 今後の改善方策

企業様との連携。

業界を盛り上げていくために、2階のトータルビューティーサロンを使って、生徒と企業の方のコラボレーションや卒業生と連携を考えている。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2023 年度目標は、退学率低減・国家試験合格率向上・就職率向上を掲げておりました。

国家試験合格率が 0.5%低減、また退学抑止には苦戦し退学率低減には至らない結果となりました。

2024 年度も引き続き、就職率は 100%にすることと、退学率と国家試験合格率の課題改善に向けて、施策を取り組んでいきます。